

第4章

分科会活動

学生と社会参画……………	46
21世紀における日米の教育……	51
安全保障と日米……………	58
社会起業家……………	66
新興国と地球環境問題……………	74
地域再生	
- 都市、農村が生き残るために - ……	80
国際社会とナショナルアイデンティ	
ティ：対立から共存へ……………	88

学生の社会参画

Empowering Today's Youth: Overcoming Challenges in Society

■分科会メンバー

坂田奈津希*
井上聡美
奥谷聡子
橋本遙
米本大河
David Myers*
Weiyang Tang
Carly Lauffer
William Coremin
(*は分科会コーディネーター)



■分科会概要

昨今、様々なフィールドで学生の活躍を垣間見ることができる。学生は、国内に対しては地域発展や高齢者への生活援助、海外に対しては環境問題、途上国援助など、社会において重要な役割の一端を担っているように思える。学校生活は単に勉学に勤しむ場というだけでなく、ボランティア活動やインターンシップなどを通して積極的に学外に飛び出そうとする学生の数は増加している。学生がこうした活動を行える背景には、学生は他の世代と比較して様々な特徴を持っているからであろう。時間的な制約のなさや特定の利害関係の薄さなどが挙げられる。しかし、その一方で、こうした活動は学校が提供するカリキュラムに組み込まれ、時に入学試験の評価対象にもなりうる。それゆえ、学生の社会への取り組みは、学校側から提供される形式的なものではないかという批判も存在する。

しかし本来、学生は自らその特徴を生かし、幅広い問題意識を形成する特別な世代であるべきではなかろうか。それゆえ本分科会では、このような学生による社会参画の現状を日本国内にある様々な事例や米国との比較を通して検討し、より

よい参画とは何か、そして学生が持つさらなる可能性とは何か検証していきたい。

■事前活動

我々は、本分科会をメンバーが自ら調査対象を決め、問題意識を紡ぎだしていく「発展型 RT」と位置づけ議論を進めることとした。

春合宿においては、タイトルにある「学生」や「社会」それ自体の定義や、それらの関係性、「社会に参画する」とは何かについて話し合った。暫定的な分析として、「学生とは、時間的制約や特定のしがらみがない自由な存在である」とした。また学生と社会の関係性については「社会とは、様々なコミュニティの集まりとして構成され、学生はそのコミュニティの中の一つとして存在する。学生コミュニティの特徴は、二つの見えざる壁によって他のコミュニティと分断されている。しかしながら学生も社会を構成する一員であり、将来を担う世代として成長に投資すべきである。よって学生はその見えざる壁を越えて他のコミュニティとのつながりを持つべきである。」とした。

また、6月12日東京大学にて ivote という学生団体にお邪魔させていただいた。この団体は、全

員が学生からなり、特色ある講演会の開催やインターネットを使った取り組みを通して若者の投票率向上を目指した様々な活動をされていた。代表の原田謙介さんによれば、日本の若者の政治意識向上のためには、まずは投票に行ってみることが入口であるそうだ。ivoteはそれを引き出すために、メールを使ったプロジェクトや議員を身近に感じるためのユニークな交流企画など自由で面白く、学生の特徴を活かした活動をされていた。

さらには、調査領域が広すぎる youth empowerment をより細かくフォーカスするために、独自に” Youth と〇〇 issues” という枠組みを作り、社会に存在する問題 (issues) を分類した。その後、それをもとに各自が自分の興味のある issue を専門領域として選択、担当し本会議に臨むこととした。

(米本 大河)



写真：ivote とのセッション

■本会議での活動

—インディアナ、ワシントン D.C.—

まず日本での話し合いを共有した後、この分科会における目標を出し合った。そこでは、日米のユースに焦点をあて、ユースとは具体的にどのような存在なのか、ユースエンパワメントとは何かという私たちなりの定義をしたいということになった。そこでまず、私たちの持っている考え方について共通理解を持つことにした。

第一にユースとは若者のことであって、若くて新しい考え方とやる気に満ちた特定の組織に対して責任を負っていない存在であることが挙げられた。また若者というのは主に大学生の年代のこと

を指すが、年齢によって判断せず、その人の心の持ちようが一番大切なのではないかという共通見解を持つことができた。またユースの特徴として十分な教育を受けていること、特定の組織に責任を持たないこと、次の世代を担う重要な存在ではあるが、自分たちが未熟であることを理解していなければならないことなどが挙げられた。

次に社会参画の定義について話し合った。私たちの分科会の日本語のテーマは「学生の社会参画」であり英語のテーマは「empowering today's youth」であったため、社会参画と empowering という単語の間に認識の違いがあった。そのため社会参画ではなく empowering という共通の単語を使って話し合いを進めることに決めた。もともとエンパワーという単語は権利を与えるという意味を持つが、私たちのイメージとしてエンパワメントとは大きな組織や大きな権力を持った人から権利やチャンスを与えられるだけでなく、ユースのほうから権力を得ようとし、またチャンスを生かしていくという二つの方向を示しているという考えに至った。さらにそういったユースの動きがまた与えられる権利やチャンスを増やしそれがまたユースの活動を活発にするといったような円のような関係が重要であり、そのような関係の中でユースがエンパワーされることでユースの力はより強大になると考えた。そのため、ユースの持っている新しい情報を年配者に伝え、年配者とのコミュニケーションをとっていこうとするようにユース自身の意識も変化させていかなければならないと考えた。その意味で教育もエンパワメントのひとつであるという意見も出た。

また、1人1人のRTペーパーについてのディスカッションをして、ユースの特徴についてさらに考えてみることもした。以下はRTペーパーのテーマ内容。

「人種差別と youth」 Carly、「政治参加と youth」 奥谷、「経済と youth」 William、「中国の youth」 Weiyang、「地域と youth」 井上、「エンパワーと youth」 橋本、「就職と youth」 米本

(井上 聡美)

第4章 分科会活動

ーニューオーリンズ、サンフランシスコー

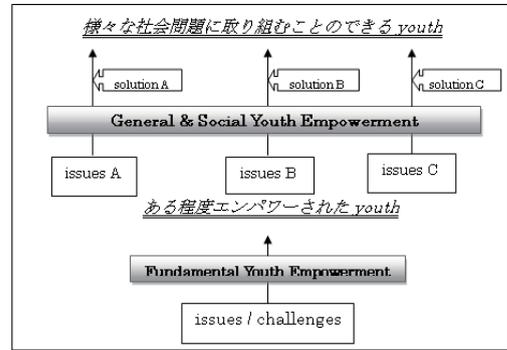
ここまでの議論で youth empowerment の定義について考える際に、youth とは何か、empowerment とは何かに分けて考えてきた。しかし youth は年齢、意識や精神の状態によってその定義を話し合われるべきものなのかという疑問が浮かんだ。と同時にこの議論の統一見解を得るのは困難であり、そもそも youth や empowerment に分けてからの定義付けは私たちが扱うものとはずれているのではないかという意見が出た。そこで、youth や empowerment という個々について考えるのではなく、youth empowerment を一つと捉えて議論を進めることで合意した。また、すべての youth がエンパワーされる機会を与えられるべきであり、エンパワーされることを強制させられるべきではないということを確認した。

そこで基本に立ち返り、私たちはこの RT で究極的に何を話し合いたいのかを共有した。それらは、①今日の youth をエンパワーすることが社会に存在するチャレンジを乗り越えることいかに作用するのか、②近い将来我々が直面するだろう問題に取り組めるために私たちは youth をいかにエンパワーすることが出来るか、③ youth empowerment とは何か、である。そのために youth empowerment をステップベースで考えることにした。

そこで、社会に生きる youth の前に存在している、あるいは存在しうる issues や challenges、youth empowerment の例として何があるか列挙した後に、それらがどのような特徴を持ったものなのかを考察した。そして、どれがトップダウンあるいはボトムアップの youth empowerment の標的となるのか分類した。しかし、このトップダウン・ボトムアップという表現では上手く説明できない、事象を適切に表しきれないという問題が浮上し、より適切な表現を求めて悶々と悩んだ。そして youth empowerment を youth-based(youth から発動されるもの)と non-youth-based(youth 以外の存在(人や組織など形態はさまざま)から発動されるもの)という枠で話し合うことにした。

(橋本 遥)

下図：ステップベースでみる Youth Empowerment



ーフィールドトリップー

1. Campus Progress (ワシントン D.C.)

Campus Progress は若者の社会参画を促す団体で、若者の政治や経済に対する意見が政府に受け入れられるよう、活動している。

2. National Youth Rights Association (ワシントン D.C.)

NYRA は若者が主導する非営利団体で、若者の権利と自由を獲得するために活動している。小さな組織をまとめる地域密着型のプロジェクトを運営したりしている。

3. Café Reconcile (ニューオーリンズ)

Café Reconcile とは、ニューオーリンズの貧困街に住む若者たちが、プロの調理師になるために訓練することができる非営利のレストランである。料理のみならず、社会人として必要な国語、算数、道徳も学ぶことができる。



■ファイナルフォーラム

アメリカにおいて広く知られている youth empowerment という言葉だが、日本においてはこの言葉はあまり知られていないのが現実だ。だからこそ、フォーラムに参加して下さった学生を含めたすべての人に私たちの分科会が考える youth empowerment とは何か、どうして youth を empower する必要があるのか、そしてそれは社会にどのような影響を与える力を持っているのかについて伝えること、学生自身に私たちの秘める力について気付かせる機会としてファイナルフォーラム発表をすることが私たちの分科会の使命だと確信した。

フォーラムでは以下の8つの項目に分けて発表を行った。

1. 今日私たちの年代の Youth が直面する題とは何か。

就職先の不足といった経済面の問題、コミュニケーション能力の低下などの社会的問題、情報化社会におけるデジタル・デバイドといった情報格差問題、社会の高齢化による若者の意見反映力の低下などの政治的問題が挙げられる。

2. 将来、社会を本格的に担う私たちの年代が直面する問題とは何か

上の世代が未解決のまま負の遺産として私たちの世代に託す地球温暖化問題など国境を越えた環境問題に対する解決策の模索、枯渇する資源と再生可能エネルギーの追求などの課題が存在し、将来の私たちはグローバルな問題にも取り組んでいく必要がある。

3. なぜ Youth を Empower する必要があるのか

それは、社会の中核である若者は今日と明日のリーダーであり、特に学生などは特定の利害関係に影響されず自由に柔軟な視野を持ち合わせ、新たな技術にも迅速に順応でき、上の世代とは異なったユニークな視点で社会を捉えることができるからだ。

4. Youth による、よらない Empowerment の違いについて

Youth によるものは同世代の強い繋がりがあるためにメッセージ性が強く、変化に柔軟に対応する力がある。他方で Youth 以外はより大きな資力があり、Youth に新たな問題意識を喚起し、長い経験から Youth を良い方向へ導き、より迅速に変化を可能にする力がある。

5. 社会に存在する問題に取り組むために、Youth をどのように Empower すべきか

Youth によるものには Youth 主導組織による機会提供・啓発活動、ソーシャル・ネットワーキングなどが考えられる。Youth 以外によるものには経済的援助や法律改正、ライフスキルなどの技術教育、政治的決定プロセスに若者を含めるなどの方法がある。

6. Youth Empowerment に取り組んでいる団体へのフィールドトリップの発表

7. 私たちの Youth Empowerment の定義

今日の世界は常に変化しており、多くの新しい問題に人々は毎日直面しなければならない。しかし、社会の主要な構成員であるはずの Youth は社会のマイノリティーとして捉えられ、彼らの秘める力は認知されず、軽視されてきた。Youth Empowerment とは若者に権利や権力を与え、学び、意見を発する機会をも提供し、動機づけること、そして世代間のギャップに架け橋をかけることである。そのみならず、新たな可能性に目を開かせ、上の世代と知恵を共有し、Youth が自立し、社会に存在する問題に自ら取り組む主体的存在になるように力を注ぐことでもある。Youth は特徴として活発、柔軟な思考力を持ち、特定の利害関係に縛られない存在であるからこそ創造的で革新的なアイデアや発想力をもつ。Youth は empower された時、壮大な力を発揮し、社会、そして世界にポジティブな変化をもたらすことができるのである。したがって、今日と明日のリーダー

第4章 分科会活動

たる Youth を将来に備え、empower することは
明るい未来のために必須なのである。

8. JASC 参加者にとっての Empowerment の定 義を聞いたビデオインタビュー

(奥谷 聡子)

■分科会コーディネーター総括

「Youth」という自らも対象者となるトピックを、
主観と客観を織り交ぜながら、どう議論していく
のか。その「先の読めなさ」に惹かれ、Youth 分
科会は誕生した。ミーティング中、自分が youth
であるからこそ、偏見がまとわりついて視野が狭
くなるのが何度もあった。しかし同時に、自分
が youth だからこそ、現状に危機感を覚えて必死
に解決策を考えようとすることもできた。アメリ
カでの1ヵ月間は、Youth が youth について考え
る意義と面白さに気付かされた1ヵ月間でもあ
った。

Youth RT の第一幕は、分科会メンバーと協力
していただいた皆様のおかげで無事終了した。し
かし、第二幕はもうすでに始まっている。帰国後、
報告も兼ねて、ivote の方々と2回目のディスカッ
ションを行った。このとき、JASC 史上初の試み
である Ustream を利用し、世界中に私達の考えを
発信することにも成功した。

あるメンバーからはこのようなメールが届いた。
「私たちは今 youth だし、歳をとっても youth だ
った経験は万人が持つてるし、soul あらば永遠に
youth だしね!」。Youth 分科会の第二幕はしば
らく終わりそうにない。

改めて、Youth 分科会に関わって頂いた全ての
方々に心から御礼申し上げます。

そして、Youth のみんな、分科会に真剣に向
き合ってくれて本当にありがとう。みんなの考
えている顔、悩んでいる顔、悔しがっている顔、
喜んでいる顔、全部忘れないよ。Let's have our
second skype reunion soon!

(坂田 奈津希)

